

平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

## 事 業 報 告 書

当期は協会が東日本大震災の復興支援のための発掘調査に会員を動員して取り組むことを内閣府公益認定等委員会が公益目的事業と認定したのに伴い、具体的な復興事業の発掘調査案件の受託に向けた活動に積極的に取り組みました。

これにより、平成 25 年 10 月に岩手県釜石市との間で委託契約が締結され、3 か所の遺跡について発掘調査を実施しました。

官民連携による復興事業の加速化が叫ばれる中で、埋蔵文化財調査分野で初めて民間導入が行われた釜石市の発掘調査は、岩手県教育委員会の文化財専門員や学芸員、釜石市の調査担当者、長野市から派遣の職員、協会会員の職員等が一つのチームとなって実施され、契約工期通り平成 26 年 3 月に完了しました。

この成果は平成 26 年 2 月に岩手県教育委員会が主催し盛岡市で開催された「いわての復興を自治の進化に」第 1 回シンポジウムにおいて発表され、当協会の活動が高く評価されることとなりました。

東日本大震災の発生以来、協会会員による寄付やボランティア活動を通じた復興支援がさまざまに行われてきましたが、協会が民間の持つ埋蔵文化財調査の専門技術を生かして復興に貢献するという公益社団法人にふさわしい活動が実施されたことで、創立 10 年を迎える当期は協会にとって社会貢献の面で大きな成果を得る年となりました。

また当期は、埋蔵文化財行政との適切な関係を構築し、埋蔵文化財調査業の健全な発展をはかるため、埋蔵文化財行政に入札結果の公表や予定価格の公表、最低制限価格の設定、総合評価方式の導入といった発掘調査の質を確保するための具体的な要請を行いました。

埋蔵文化財行政が民間調査組織を導入している状況に応じて、地元会員と協会が一体となって行うこれらの要請は、地域の実情にあった活動として着実に成果をあげつつあります。

一方、会員の技術力向上を図るために当期に実施した第一回優秀調査報告書表彰は、協会外部の埋蔵文化財行政経験者が選考委員となって厳正な審査がおこなわれ、関西地区会員の株式会社アコードが作成した「上野遺跡Ⅱ 奈免羅・西の前遺跡Ⅳ」が最優秀賞を受賞したのをはじめ、優秀報告書として 6 件が選ばれるなど、民間調査報告書の質の高さが表彰によって示されることとなりました。

資格認定事業のうち発掘調査の専門家を養成する埋蔵文化財調査士の資格試験は着実に成果を上げている一方で、一般社会に向けた公益活動として実施している考古検定は第 5 回を迎えた当期に上級クラス、中級クラス、初級クラス、

入門クラスの4クラスを実施しましたが、受検者数の減少傾向が止まらず、課題が残る結果となりました。

以上のような活動のもとで当期は次の通り事業を実施しました。

1. 平成25年10月に釜石市と横瀬遺跡埋蔵文化財発掘調査業務委託ほか2件の委託契約を締結し、平成26年3月に成果品を納品し契約を完了しました。
2. 埋蔵文化財調査士の資格検定試験を9月に東京で実施しました。  
埋蔵文化財調査士補の資格検定試験を8月に東京と大阪で実施しました。
3. 埋蔵文化財調査士と埋蔵文化財調査士補の資格取得者を対象に継続教育を実施し、4月と10月にポイント認定を行いました。
4. 資格取得後満5年を迎えた埋蔵文化財調査士と埋蔵文化財調査士補の資格更新を12月に行いました。
5. 埋蔵文化財関係行政機関に発掘調査の民間活用や入札制度の改善等について提案、要請を行いました。
6. 協会と会員、埋蔵文化財行政が一堂に会する地区懇談会を開催しました。  
7月 鳥取県鳥取市（鳥取県文化課が参加）  
9月 鹿児島県鹿児島市（鹿児島県文化財課が参加）  
11月 岐阜県岐阜市（岐阜県文化課および岐阜県文化財保護センターが参加）  
26年3月 山梨県甲府市（山梨県学術文化財課・甲府市文化課が参加）
7. 5月に小田静夫氏による特別講習会「黒潮文化の考古学」を開催したのをはじめ、7月に埋蔵文化財調査士補講習会を実施しました。
8. 第5回考古検定を全国の主要都市に会場を設け、入門・初級・中級・上級の4クラスの検定試験を実施しました。
9. 第1回優秀発掘調査報告書の表彰を25年5月に行いました。
10. 25年度埋蔵文化財調査要覧の企画・編集を行い、7月に刊行しました。
11. 考古学専門誌「月刊 考古学ジャーナル」10月号の編集を行い、「民間組織化の10年とこれから」を特集しました。
12. 25年度会報「飛天」を11月に発行しました。